

# 調 剤 内 規 集

(ホームページ掲示用)

大阪市立十三市民病院 薬剤部

平成 14 年 4 月 1 日作成

平成 19 年 1 月 1 日改訂

平成 23 年 11 月 1 日改訂

## 1. 薬袋の取り扱いについて

- 1) 薬袋は基本的にRP毎に発行する。
- 2) 薬袋を別にする場合
  - ① 処方中指示のある場合
  - ② 用法上、製剤上特殊性のある場合
  - ③ 経口糖尿病用剤
  - ④ 冷所保管薬
  - ⑤ 麻薬
  - ⑥ 覚せい剤原料
  - ⑦ オーファンドラッグ
  - ⑧ 外用薬（原則、1薬袋に1種類）

## 2. 錠剤の調剤について

### 1) 1包化調剤

医師が処方箋入力時に「1包化」を指示した処方箋は、基本的に退院薬であっても1包化する。1包化にあたっては、服用指示毎（朝、昼、夕、寝る前など）に一括分包する。日数が同一日数のRPをまとめる。

### ② <原則として1包化しない薬剤>

【糖尿病薬】：アマリール錠 1 mg、グルタミール錠 40 mg、ジメリン錠 250 mg、グリベングラミド錠 1.25 mg、オペアミン錠 2.5 mg、ネルビス錠 250 mg、アクトス錠 15、スターシス錠 90 mg、ベイスン OD錠 0.2、セイブル錠 50 mg、ジャヌビア 50 mg錠

【内容物が液状のカプセル】：ディーアルファカプセル 0.25、ニフェジピンカプセル 5 mg、メナテトレンカプセル

【吸湿性のある薬品】：アスケート錠 300、オパルモン錠 5  $\mu$ g、プランルカストカプセル、ザンタック錠 150、セルニルトン錠、カバサール錠 1 mg、デパケン R錠 100、パンスポリン T錠 200、フロモックス錠、プレディニン錠 50 mg

【光により変色する薬品】：コルヒチン錠、サイトテック錠 200、メキタゼノン錠 3 mg、フラジール内服錠、ニトロペン舌下錠 0.3 mg、ワンアルファ錠 0.5、メントリース錠 10、ケーワン錠 5 mg（含量低下）、シングレア錠 10 mg、シングレアチュアブル錠 5 mg、カバサール錠 1 mg

【薬効、用法上特殊性のある薬品】：アクトネル錠 2.5 mg、アレンドロン酸錠 5 mg、ゼフィックス錠 100、ヘプセラ錠 10、レベトールカプセル 200 mg、メトトレキサートカプセル 2 mg、ナゼア OD錠 0.1 mg、マグラックス錠、フォサマック錠 35 mg、プロマック D錠 75、バルトレックス錠 500

【毒薬】：ウブレチド錠 5 mg

【麻薬】：MS コンチン錠 10 mg、オキシコンチン錠 (5, 10, 20 mg)、パシーフカプセル 30 mg

【準麻薬】：ペンタジン錠 25

【覚せい剤原料】：エフピーOD錠

【抗悪性腫瘍剤】：アリミデックス錠 1 mg、イレッサ錠 250、ピカルタミド錠、フェアストーン錠 40 mg、エンドキサン錠 50 mg、ティーエスワン配合カプセル (20 mg、25 mg)、ユーエフティ配合カプセル、メソトレキサート錠 2.5 mg、タスオミン錠 10 mg、ユーゼル錠 2.5 mg

【刺激臭】：メシル酸ペルゴリド錠 250 mg、オルメテック錠 20 mg

【冷所保管薬】：エストラサイトカプセル 156.7 mg

### 2) 錠剤の分割投与

- ① 錠剤の半錠投与は、割線のある錠剤は割線の最少単位まで分割分包して投与する。
- ② 割線の無い錠剤は、粉砕して投与する。
- ③ 1包化の指示の無い処方箋での半錠の取り扱いは、  
○半錠が同一RPの中に2種類以上処方された場合、それぞれ分包し同一薬袋にて投与する。  
○1回量が 1.5 錠や 2.5 錠の場合、1回量を1包化して投与する。

### 3) 錠剤の粉砕

粉砕指示のある薬品は粉砕する。

## 3. 散薬の調剤について

2) 同一RP内に、2種類以上の散剤が処方された場合、原則混合調剤を行う。  
ただし、ヒート予包剤しかない場合、ヒート予包剤はバラして混合することなく別包とする。  
\*小児科処方での「カネボウ柴苓湯」にかぎり例外とする。

(例1) ベリチーム配合顆粒 3.0 g

酸化マグネシウム 1.5 g 1日3回毎食後 ⇒ 混合調剤し1回1包とする。

(例2) ルフレン配合顆粒 1.5g  
 酸化マグネシウム 2.0g 1日3回毎食後 ⇒ ルフレンはヒート予包、酸化マグネシウムは秤量し、1回各1包とする。

3) 別包とするもの(単独で調剤する薬品)

① ヒート予包剤のみの在庫薬品

アミノレバンE N50g、ガストローム顆粒 1.5g、ツムラ漢方薬、カネボウ漢方薬、カリメート5g、バクタ配合顆粒1g、ヘパンED80g、エパデールS(600mg、900mg)、クレスチン1g、ユーエフティE配合顆粒0.75g、マーロックス懸濁内服用 1.2g、エレンタール 80g、クレメジン細粒2g、SM配合散 1.3g、リーバクト配合顆粒 4.15g、塩酸バンコマイシン散 500mg(V)、ルフレン配合顆粒 0.5g、ミラクト細粒 0.5g

② 他と混合しにくい薬品

ダイオウ末

③ 吸湿性がある薬品

40%エピネナート徐放顆粒、抗生物質、ドライシロップ、40%ハイセレニン細粒

④ 薬効上特性のある薬品

酸化マグネシウム、抗がん剤

⑤ 保管・取り扱いに注意する薬剤

冷所保管薬剤、糖尿病薬剤(ハイリスク薬)

4) ヒート剤の秤量

① ヒート剤2包の場合

(例1) 酸化マグネシウム 3.0g 1日3回毎食後 ⇒ 酸化マグネシウムヒート(0.5g)を1回量2包とするのではなく秤量する。

(例2) 乳酸カルシウム 4.0g 1日2回朝夕食後 ⇒ 乳酸カルシウム(1.0g)を1回量2包とするのではなく秤量する。

② ヒート剤をバラして秤量

(例1) 乳酸カルシウム 2.0g 1日3回毎食後 ⇒ 乳酸カルシウム(2.0g)をバラして3包にする。

5) 組み合わせ散剤

配合により薬効の変化や湿潤等を伴い、明らかに禁忌の時、あるいは疑わし時は、組み合わせ散剤とするか、またはヒート予包剤を使用する。

(例1) スクラルファート 3.0g

マーロックス懸濁内服用 3.0g 1日3回毎食後 ⇒ 各々ヒート剤で調剤

薬品名	変化	薬品名
VC含有薬品(シナール等)	湿潤・変色	塩基性物質含有薬品(コランチル、酸化マグネシウム、SM配合散等) トランサミン細粒、アスparaK散
アドナ散(院外専用)	変色	酸化マグネシウム含有薬品、重曹
アスピリン	変色	重曹
INAH	変色	重曹、乳糖

\*VC含有薬品、アドナ散、アスピリン、INAHを単独で調剤する。

6) 倍散での調剤

イスコチン末、アスピリンが100mg未満の量で処方された時 ⇒ 10倍散で秤量。

10%ロートエキス散が10mg未満の量で処方された時 ⇒ 100倍散で秤量。

0.1%ジゴシン散が0.1mg未満の量で処方された時 ⇒ 1万倍散で秤量。

その他、秤量する薬剤の1日量(または1回量)が0.1g未満の場合 ⇒ 随時倍散を最少量作り秤量する。

7) 賦形剤の添加

散薬の1日量または1回量が少ない場合、賦形剤を入れる。原則として乳糖(CF結晶乳糖)を使用する。(ただし、INAHは、バレイショデンブンを使用する。)

1日の服用回数	薬剤の1日量	賦形剤の添加
2回以上	0.5g未満	0.5g加える
1回または頓服	0.3g未満	0.3g加える

(ただし、顆粒剤とは、薬品名に顆粒と表示のあるもの。)

- 注1) 顆粒剤、ドライシロップ及び抗生物質の場合、賦形剤を加えない。  
 注2) 錠剤を粉砕する場合、特に指示がなければ錠剤の実測重量に応じて賦形剤を加える。  
 注3) 「乳糖禁」の指示がある場合、乳糖を加えず、バレーショデンプンを加える。

8) カプセルおよび錠剤の粉砕

粉砕する総錠数が整数（割線がある薬剤は、半錠の整数倍）にならない場合、整数倍になるまで日数を増やして調剤し、必要日数分を投与する。

(例1) ワーファリン 0.75 錠 粉砕 1日1回朝食後 3日分 ⇒ワーファリンを4日分(3錠)を粉砕調剤後、3日分使用、1日分廃棄する。

4. 水薬の調剤について

1) 水薬は全て原液で投与する。

処方された全量が入る最少単位の投薬瓶で調剤する。

2) 賦形液の添加

1日の処方薬液量を服用回数で割って、1回分の服用量が整数mlにならない時は、割り切れる最少量の賦形液（単シロップ）を加える。

注1) 糖尿病患者も同様に扱う。

注2) トリクロリールの場合、単シロップは添加しない。

3) 添付する容器

1回服用量が、5ml 以上には計量カップを、5ml 未満にはスポイド（2ml 用）を水薬瓶に付けて調剤する。

また、アルファロール液の場合、ニプロカテテル用シリンジ GA を付ける。

4) 原液のまま単独で投与する薬品

○ 開栓することなく一本渡しする薬品

ラキソベロン液 10ml

○ 単独で投与する薬品

アルロイドG、アルファロール液、インクレミンシロップ、イソバイド、アクディームシロップ、ハリゾンシロップ（うがい用を除く）、ポンタールシロップ、モニラックシロップ

5. 外用薬の調剤について

1) 坐薬の分割

坐薬を分割して投与する指示がある場合でも1回量を1個として投与する。

ただし、麻薬はこの限りではない。

(例1) アンルーメ坐薬 1回に 1/3個×3回分3個投与  
 1/2個×4回分4個投与

(例2) アンパック坐薬 1回に 1/2個×4回分2個投与

2) 外用液剤

処方量が入る最少単位の瓶で投与する。内服用剤と区別できるよう（赤キャップ）をする。

超音波ネブライザー用			
NB1	1単位	NB3	1単位
ビソルボン吸入液 0.2%	1ml	ビソルボン吸入液 0.2%	1ml
ベネトリン吸入液 0.5%	0.4ml	生理食塩	10ml
生理食塩液	10ml		
コンプレッサーネブライザー用			
CB1	1単位	CB3	1単位
ビソルボン吸入液 0.2%	1ml	ビソルボン吸入液 0.2%	1ml
ベネトリン吸入液 0.5%	0.4ml	生理食塩液	2ml
生理食塩液	2ml		

\*茶色：瓶、赤色：キャップ

3) 軟膏・点鼻薬の分割調剤の場合

各種軟膏壺や10mlの点鼻用容器に入れ、薬剤名・調剤年月日の表示ラベルを貼付する。

## 6. 院内約束手方について

院内約束手方名	構成薬剤名	単位
咳杏甘水（24ml）	プロチン液	10ml
	キョウニン水	5ml
	単シロップ	9ml
咳杏水（15ml）	プロチン液	10ml
	キョウニン水	5ml
含漱用ハリゾンシロップ A 液（12ml/500ml）	ハリゾンシロップ	12ml
	精製水	488ml
含漱用ハリゾンシロップ B 液（24ml/500ml）	ハリゾンシロップ	24ml
	精製水	476ml
含漱用ハリゾンシロップ C 液（24ml/300ml）	ハリゾンシロップ	24ml
	精製水	276ml
5%抱水クロラール	抱水クロラール	5g
	精製水	ad 100ml